

## 第 10 回日英共同ワークショップ議事次第（案）

日時：平成 20 年 10 月 5 日（日） 19：00～20：00（予定）  
平成 20 年 10 月 6 日（月） 8：30～21：00（予定）  
平成 20 年 10 月 7 日（火） 9：00～18：30（予定）

場所：Bovey Castle, North Bovey, Dartmoor National Park, Devon

### 議 題

1. 日英における内分泌かく乱作用に係る研究の取組状況と進展  
井口 泰泉（自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター）  
チャールズ・タイラー（エクセター大学）
2. 二国間における研究の成果と技術的な課題について
  - (1) 排水由来エストロゲン作用の削減効果の評価に関する研究  
田中 宏明（京都大学）  
鈴木 穰（土木研究所）  
アンドリュー・ジョンソン（生態・水文学センター）
  - (2) イトヨによる内分泌かく乱作用の評価手法の研究  
長江 真樹（長崎大学）  
イオアナ・カチアダキ（環境・水産・養殖科学センター）
  - (3) 魚類のエストロゲンに対する種特異性に関する研究  
勝 義直（自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター）  
アンケ・ランゲ（エクセター大学）
  - (4) 両生類の生態影響評価手法の研究  
高瀬 稔（広島大学）  
ダニエル・ピックフォード（ブルネル大学）
3. 招待講演
  - (1) 水環境中のナノ粒子による生態毒性に関する調査研究  
ライズ・グッドヘッド（エクセター大学）
  - (2) 湖の生態系に対するエチニルエストラジオールの影響  
カレン・キッド（クレッセント大学）
  - (3) 無脊椎動物による生態影響評価  
鑑迫典久（国立環境研究所）
  - (4) 政策における科学の役割  
マイク・ロバーツ（英国環境・食糧・農村地域省）
4. 総括および今後の方向性

座長：井口 泰泉、チャールズ・タイラー

以 上